

シフトリス!ウエツツ 共著・山川均・荒畑勝三共譯

新刊

(十一月月中旬發賣)

# 労働組合運動史

菊 判 六 百 頁 内 外  
定 價 未 定  
送 料 未 定

英國は労働運動の故郷と云はれる國であつて、其労働組合は過去二百年間の實き経験の成果である。其うちには悲壯な闘争があり、光輝ある成功があると共に、資本家側にも労働者側にも幾多の過誤があり、錯誤があり、失敗がある。そして英國組合運動の歴史が、後進者に取つて特に教訓に富んで居る所以も亦こゝに在る。原著者ウエツツ氏は、學者として、また眞摯なる社會改良論者として、英國に實きを爲すと同時に、労働運動史の權威を以て評さるゝの人である。本書は氏の二大名著の一つとして、組合運動史の研究に、不朽の貢獻を残した貴重な文書であつて、苟も労働運動を語り、労働組合を論ずるものは、氏の組合運動史を参照せざる者なしと云ふも過言でない。戦前に親しく獨逸の組合運動を調査したステフエン・サンダース氏は、獨逸の如何なる労働組合の一小地方支部に往つて見ても、曾て本書の獨逸譯を所蔵せぬ所はないと云つて居る一事に依ても、労働運動並びに組合運動の實験家からも、研究者からも、本書が如何に高き評價を拂はれて居るか、覗はれる。先進者の経験に學んで、有ゆる精力の空費と行程の迂迴を避け、最小の犠牲によつて最大の効果を擧げる事は、後進者の特權であると共に、義務である。譯者が微力を顧みずして此大著の反譯を企てた所以は、恰かも労働組合運動の黎明期にある我國の現狀が、最も切實に本書の公刊を必要として居る

東京 牛車水 神田 一丁目 叢文閣 振東 替京 四 貯八 金八 口九